中学校１年　英語　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類 ＼ 設定通過率の	観点別			領域別			計
	表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと	
＋ 10 %より高い	0	2	3	0	3	2	5
± 10 %の範囲内	1	9	2	7	3	2	１２
－ 10 %より低い	3	0	0	0	0	3	3
計	4	１１	5	7	6	7	２０

（２）考察

①　全体について

ア「理解の能力」「知識・理解」の学習状況は、おおむね良好である。

イ「表現の能力」の学習状況は、特に「正確な筆記」に課題が見られる。

②　成果

ア「読むこと」の学習状況は良好である。特に、書かれた情報について大切な部分を読み取ったり、書かれた内容に適切に応じたりする力が身に付いている。

イ「聞くこと」の学習状況は良好である。外国語活動との円滑な接続が意識され、日頃の指導で音声が重視されている様子がうかがえる。また、これまで課題とされてきた「質問に対する適切な応答」においても改善が見られる。

③　課題

ア「書くこと」において、文法に従って正確に書く力が十分身に付いていない。特に、疑問文とその応答を、主語と動詞を用いて書くことに大きな課題が見られる。

イ「書くこと」において、習得した文法を、表やメモ等の情報に照らし合わせて活用し、正確に表現する力に課題が見られる。

（３）今後の指導

ア　文法事項は言語活動と関連付けて定着を図る指導の工夫が必要である。

・文法の指導では、その意味や機能を理解させるために適切な場面設定を工夫する。特に３人称の文は、言語の働きや使用場面に留意して、友達や家族の紹介などの言語活動を充実させる。

・文法の中でも、特に be 動詞と一般動詞の使い分けや、疑問文・否定文の文構造の理解など、基本的なものについては、繰り返し学習したり、他の文法と関連付けたりして定着を図る。

イ　定着した文法事項を実際に活用できる指導の工夫が必要である。

・学習した文法事項は、対話文やまとまりのある英文の中に盛り込むなどして、実際に使用される形で、生徒に提示し活用を図る。その際、聞いたり読んだりする活動を、話したり書いたりする活動に結び付けて、４技能を総合的に育成する。

・イラストや資料を参考にしてそれらに合う英文を書いたり、与えられた条件を満たす対話文を考えたりする表現活動を充実させる。

※実際の指導例：（14

身近な言語の使用場面を設定し、思考・判断・表現させる言語活動を取り入れる。

（例）イラストを参考に、ペアで対話文を完成させる活動。

A ： This is my brother Kenta.　He is a high school student.

B ： Does he like sports?

A ： Yes. （1）　　.

B ： How about you?

A ： （2）　　.

（3）

“問いを発する子ども”の基盤作りに資する問題

①　(1)(2)に当てはまる適切な英文を考えて書く。

②　(3)に対話の続きを考えて書く。（英文の数や言語材料等、具体的な条件を与える。）

③　音声の特徴や表現方法等に留意し、ペアで対話練習した後、発表する。